

自己評価

学校運営計画 (4月)				評価 (総合)		
学校運営方針	I 学校教育目標 伝習館教育の基本を踏まえ、長い歴史と伝統の中で形成されてきた気風高き伝習館の精神を具現化する教育活動により、意欲溢れるグローバル・ローカルリーダーを育成する。 【伝習館教育の基本】 3 T 「大切に育てます。丁寧に育てます。挑戦する心を育てます。」 【伝習館の精神】 (1) 「立花の義」人を大切にし、決して裏切らない (2) 「三稜精神」知・徳・体の調和のとれた人であれ (3) 校訓「明朗・誠実・剛健」と校是「志・鍛・挑・和を以て誇りとす」			B		
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標				
新型コロナウイルス感染症の影響による新しい生活習慣が2年目を迎えた。ICT環境の整備や教職員の操作スキルの向上もあり、授業においては非常災害等においてもオンライン授業をはじめとするICT機器やソフトを活用し、安心して学べる指導体制を確立させることができた。昨年度も様々な学校行事が例年と異なる形態での実施となったが、行事の意義や目的を再確認しながら職員・生徒全員の力を結集して、状況に適切したスタイルに代えることで着実に成功に導いていくことができた。このことは、今後予測が困難な課題に直面しても様々な工夫をして実施していこうという意識を形成し、将来を生き抜く力の向上にも繋がったといえる。今年度は新教育課程の実施初年度に当たる。昨年度以上に授業改善を推進しながら、授業等で主体的・対話的で深い学びを充実発展させるとともに、探究活動、英語イマージョン教育の重要性を全職員で共有し取り組みを推進していくことが課題である。あわせて、次年度に控えた創立200周年の行事の成功に向けて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校行事の在り方、行事を通じた生徒の育成方法についての検討を速やかに行うことが課題となる。	1 学力の向上 2 人間力の向上 3 教師力の向上	1 確かな学力をつけ、進路目標を達成させる (1) 自律した生活を送り、家庭学習習慣を確立させる。 (2) 知る喜び、学びを楽しむ能力を高め、主体的、能動的学習姿勢を育成する。 (3) 日々の授業を通じて、考える力、予測する力、構想する力を育成する。 (4) 英語イマージョン教育の発展、日本語四技能推進強化により、思考を深め、表現力、コミュニケーション力を高める。 (5) 3年間を見通したキャリア教育により自らの人生をデザインし、高い志を育む。 2 優しくしなやかな人間力をつける (1) 規範意識に富み、笑顔の挨拶を習慣化させる。 (2) 日々文武両道に励み心と身体を鍛える。 (3) 他者への思いやりを持った言動をとり、安心・安全な学校生活を送らせる。 (4) 学校行事を通じて社会情動的スキルを育成する。 (5) 伝習館で学ぶ自覚と誇りを持った愛校心を育む。 3 教師力を向上させる (1) 授業力を向上させる工夫を継続する。 (2) 校内外の研修により専門性を磨き、ICTとチョークのハイブリッドを継続する。 (3) 豊富な内容を持った確かな進路指導により生徒の可能性を最大限伸ばす。 (4) 「伝不習乎」と自らに問い、教師自らが学び続ける意欲と情熱を持つ。 (5) 生徒の模範となる行動をとり、誠実に信頼される教師であり続ける。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題		
教務部	教務課	ICT機器の活用や観点別評価を通して、授業の改善と基礎基本の徹底を図る。	Chromebookの有効な活用法を研究し、生徒が主体的に学ぶ授業スタイルを確立する。	B	B ①授業の改善と基礎基本の徹底を図る。 ②新教育課程を構築する。 ③評価の振り返りを行い、指導改善に活かす。	
		総合的な探究の時間の内容の充実と来年度以降の実施計画の改善を進める。	1, 2学年で実施される観点別評価を確実に実施し、指導の改善につなげる。	B		B
			1学年の後半から課題研究の準備を開始し、探究のプロセスの基礎を身につけさせる。	A		A
			2学年の課題研究では地域に目を向けて、社会問題や課題解決に導く方法を考えさせる。	A		
		校務支援システムの活用方法についての研究を進める。	3学年の進路研究のプログラムを改善し、自己の在り方生き方を考える機会にする。	B		B
			学期末、学年末の業務フローを見直し、円滑な成績処理ができるようにする。	A		
	観点別評価を校務支援システム上で行うことができるか検討する。		C			
	庶務課	統合型校務支援システムの適用や学校行事のオンライン配信も含めて、コンピュータを十分に活用した運用を行う。	部活、委員会、進路希望など、教務以外の利用法について研究し、得られた知見を共有する。	C		
			生徒用クロムブックの授業や自学での活用を図る。	A		A
			統合型校務支援システムの運用、各種情報機器の保守・点検、他分掌との連絡調整を行う。	A		
		読書センター、学習センター、情報センターとしての図書館機能の充実を図り、生徒の利用向上を測る。	行事での責任者会議、係会議を活用し、円滑な運営を図る。	A		
			「朝の読書」の推進、「図書館便り・新着図書紹介」などの発行を行い、生徒の読書意欲を喚起する。	A		
定期的に通書を行うことで、蔵書の充実を図り本校にふさわしい書籍を購入する。			A			
父母教師会活動の内容を保護者とともに再考し、充実したものにする。	館内展示を有効に行い、常に生徒の学習支援を行える状況を整える。	A				
	PTA行事を役員、職員で検討し、円滑な行事の運営を目指す。	A	A			
	職員にPTA行事への協力体制をより構築する。	B				
マメール (学校緊急メール) を、PTA行事の連絡に有効に活用し、迅速な対応を図る。	A					

学校関係者評価

評価 (総合)	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	自己評価は	
	A 適切である	
B	B 概ね適切である	
	C やや不適切である	
B	D 不適切である	
	B	一人一台端末の活用については、主体的な学びにつながる授業以外の場面での活用について推進していただきたい。また、教育課程についても現状と課題の分析に基づいたより伝習館の特色化につながる工夫を行っていただきたい。
A	A	創立200周年記念事業の成果と課題をもとに、新たな歴史づくりに向けて、同窓会や父母教師会長との連携をより一層深めていただきたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題		
教務部	広報・中学募集課	本校の教育活動の様子や在校生の様子を具体的に発信することで本校の魅力を伝える。	デザインの工夫や本校ならではの内容（進学実績等）を掲載し、学校案内パンフレットをより充実したものとす。	B	①伝習館入学を志す生徒（中学生）を増やす。②オープンスクールのさらなる内容の充実と、本校の強みに特化して他校との差別化を行う。③本校生徒の素晴らしい様子、生き生きとした様子を伝える。	
			リニューアルしたホームページをより本校の良さが伝わる内容に充実させ、PRにつなげる。	B		
			伝習館創立200周年記念事業で誕生したロゴマーク・キャラクターを積極的に活用した広報活動を行う。	C		
			従来のオープンスクールに加えミニオープンスクールを開催し、参加者数のべ550名を達成する。	B		
			本校の最大の魅力である「在校生の姿」を見てもらうことで、伝習館のすばらしさを伝える。	A		
			中学生の志望校選択の時期に合わせた内容のオープンスクール・ミニオープンスクールを実施する。	C		
		中学校や塾との信頼関係を深めるための定期的な中学校訪問や塾訪問を計画し、全職員への情報の共有化を図る。	時期に応じた内容の定期的訪問を提案し、中学校や塾との信頼関係を深める。	B		
			中学校・塾対象説明会を開催し、本校の特色を伝えると同時に本校への要望や評価を探り教育活動や生徒募集に活かす。	B		
			他校の広報活動や志望者動向についての情報を収集し、本校の職員への情報共有を行う。	C		
	研修課	職員の研修意欲の高揚を図り、資質の向上に繋がる研修を企画・支援する。	職員のニーズに応じた7回の職員研修会を企画・実施して実践的な指導力と資質の向上につなげる。	B		①校務分掌や学年と連携しながら、より実践的で効果的な校内職員研修会を実施する。②職員・生徒・保護者の人権意識を向上させる。③若年教員研修対象者の支援を充実させる。
			教員のICT活用指導力向上、新教育課程と大学入試の動向に関する校内研修を行う。	B		
			キャリアアップ講座、予備校研修、各種研究会などの校外研修会へ複数の教員が参加できるように調整する。	C		
職員の人権に関する意識を高め、人権同和教育の推進を図る。		学年ごとに生徒の人権に関する問題把握に努め、人権・同和教育指導案の検討を行う。	A			
		生徒、保護者、教員の人権意識の向上を図るため、父母教師会と連携して人権講演会を実施する。	A			
		身体的・発達の支援を要する生徒への支援態勢を整えるための校内職員研修を複数回実施する。	B			
若年教員研修、中堅教諭等資質向上研修、エキスパート教員研修を支援するとともに、教育実習の運営を確実に進行。	若年研（1年目）（2年目）（3年目）、中堅研、エキスパート研の基本研修の企画および報告文書等の作成を確実に進行。	B				
	若年教員研修の企画・運営を行い、若年教員の指導力向上を目指す。	C				
	教育実習に関する連絡や調整を行うとともに、報告書等の作成を確実に進行。	A				
進路指導部	進路指導課	高い志に向き合い、挑戦する心を育成する。	よのなか講座を通して、職業観を育成し、高い目標を目指す。	B	①生徒に必要な基礎的学力を定着させる。 ②新課程入試に対応する学力の育成を図る。 ③学びに向きあう力と人間性を育成する。	
			進路講演会や大学出張講座を通して、国公立大学合格率向上を目指す。	B		
			外部模試及び外部検定に挑戦させ、更なる学力の伸長を図る。	A		
	基礎学力を定着させ、思考力を伸ばし、第一志望進路の実現を目指す。	育成する力に応じた講座制課外・土曜セミナーを実施し、主体的な学習支援を行う。	B			
		学びの基礎診断で自己適性を知り、早期に自己進路を具体化させる。	B			
		ハイスクールオンラインから情報収集および情報共有による的確な進路指導を行う。	B			
	取り組みや成果を地域・保護者へ発信する。	進路の手引きや進路ナビを発行し、「選ばれる学校」への広報活動とする。	B			
		進路情報や入試問題など自習室の充実を図り、教師や生徒に有効活用する。	B			
		地域、保護者、生徒の期待に応じた進路情報をHPを通じて発信する。	B			
生徒指導部	生徒指導課	伝習館スタイル（規律と品位と笑顔の挨拶）の確立と規範意識の維持向上を図る。	挨拶習慣・マナー教育を充実させ、笑顔の挨拶と端正な制服の着こなしを徹底する。	B	伝習館スタイルの確立生徒主体の学校行事（大運動会、三稜祭、クラスマッチ等）専門委員会の体制見直し	
			交通安全教育や登下校指導を通して、交通安全への意識向上の徹底を図る。	A		
			面談期間を通じて、生徒のサインを早期に発見し、いじめや問題行動の未然防止に努める。	A		
		生徒主体の大運動会、三稜祭とし、社会情動的スキルの育成を図る。	生徒会や実行委員会を中心とした生徒中心の企画運営とする。	B		
			大運動会については、「情熱・協働・自律」をモットーに取り組みさせる。	A		
			三稜祭において、校内ステージ発表・校内展示発表、一般公開の充実・発展を目指す。	B		
	生徒会を中心とした各種活動の活性化を図る。	生徒会を中心にアゴラ集会を活性化させ、主体的生徒の育成を図る。	B			
		各種委員会の活動内容の明確化と取組の発信を行う。	B			
		部活動の活性化と地域の活性化に繋がるボランティア活動への積極的参加を促す。	B			
生徒指導部	保健課	心身の健康の保持増進を図り、健康管理・健康教育を充実する。	健康診断・身体測定の結果をもとに助言を行い、生徒の自己管理能力を育成する。	A	①心身の健康保持・増進に積極的に取り組む。 ②清掃活動の充実と共に、奉仕活動等を含めた積極的な環境美化を図る。 ③健康的で、心身共に逞しい生徒を育成する。	
			保健だよりや健康に関する掲示物等を充実させ、適切な情報を発信する。	A		
			体育的行事・学年行事の前に校医による健康相談等を実施し、事故防止に努める。	A		
	清掃活動や奉仕活動を通して、生徒の主体的な環境美化に対する意識の高揚を図る。	日々の清掃活動を徹底しながら学習環境を「精美」する。	B			
		年2回の美化週間の内容を見直し、清掃状況に関する評価を伝え、校内美化を充実する。	B			
		地域清掃ボランティア活動を年2回実施し、生徒の主体的な美化活動を推進する。	B			
	健康的で、生きる力を持った生徒を育成する。	日々の健康観察や保健室利用等の連絡を密に行い、生徒の動向の変化を早期に発見する。	A			
		学年・教育相談委員会・スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒支援に努める。	A			
		健康教育推進事業等の実施を通して、個々に対するきめ細かな支援に努める。	B			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	在校生の姿を通して本校の魅力を発信することは、本校に対する「憧れ」を抱かせることに有効であると考え。様々な手立てで魅力を発信していただきたい。
A	教職員の育成指標に基づき、職員の職能開発や授業改善につながる効果的な研修を展開していただきたい。
B	生徒の第一志望実現のためにも、3年間の系統的な学びの体系づくりについて、今後も推進していただきたい。
B	生徒が主体となって運営する諸行事の充実に向けて、より一層取り組んでいただきたい。主体性やリーダーシップの育成を積極的に推進していただきたい。
A	SC等との連携をはかり、教育相談機能の組織的・効果的な推進を今後も進めていただきたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
第1学年	基本的な生活習慣を確立する。	個人面談や手帳を活用し、生活のリズムを整え、高校生活適応の支援をする。	B	B	①基本的な生活習慣と学習習慣を確立させる。 ②進路意識を高める。 ③自主・自立・主体性を涵養する。
		学年団で情報を共有し、教育相談委員会と連携しながら、心身ともに健康に過ごせるように指導する。	B		
		日頃から保護者との連携を密にし、生徒の生活状況を把握し、指導に反映させる。	B		
	主体的な生徒を育成する。	日常生活における生徒との関わりの中で、挨拶の励行、時間の厳守、掃除の徹底を図る。	B	B	
		学校行事や学年行事での役割を通して、人間性の成長を図る。	B		
		学校外での研修やコンクール等を案内し、積極的に参加するよう促す。	C		
基礎学力を定着させ、進路意識を高める。	予習、授業、復習のサイクルを習慣づけ、効率的な学習方法を身に付ける。	C	B		
	考査前の学力向上学習会や個別指導により、基礎基本の理解を図る。	B			
	進路学習を通して、自分の興味・関心を知り、将来の目標が持てるように支援する。	B			
第2学年	学校の中核となるリーダーとフォロワーの育成	学校行事、部活動、生徒会活動への積極的な取組の推進。	B	B	①自主・自立の精神を涵養する。 ②人間的成長を促進させる。 ③伝習館生としての誇りを持たせる。
		挨拶の励行、時間の厳守、端正な身なりの徹底。	B		
		リーダーを支える意識を持ったフォロワー意識の醸成。	A		
	進路意識の高揚と課題研究の充実	進路行事による、高い志を持った生徒の育成。	A	A	
		学習環境の整備によるモチベーションの高揚。	B		
		外部との連携を意識した課題研究の一層の充実。	A		
	主体的な学習スタイルの確立	生活の記録、二者面談等による生活状況の把握。	B	B	
		Chromebook等を活用した個別最適化学習の推進。	B		
		授業を柱とした学習習慣の完成。	B		
第3学年	健やかな生活を自分で整える力を養う。	規則正しい生活（生活の記録で確認）をし、心身ともに健康に過ごせるようにする。	B	B	①基本的な生活習慣を確立させる。 ②基礎学力の定着を図る。 ③進路意識を高揚させる。
		保護者との情報交換を行い、家庭と協力して健やかな生活が送れるように努める。	B		
		学年団で情報共有を常に行い、教育相談委員会との連携を密にし、最適な方法で指導にあたる。	A		
	進路実現を通して人間的成長を促す。	授業・課外・補習を中心とした学習活動の充実と自学力の育成を促す。	B	A	
		学年団で進路指導に関する情報を共有し、生徒に速やかな情報発信を行う。	A		
		第一志望校を目指し、粘り強く努力するように個に応じた指導を行う。	A		
	伝習館生としての自覚を持った生徒の育成を促す。	200周年の伝統を意識しながら、最上級生として、下級生の模範となるような言動をとらせる。	A	A	
		学校行事への積極的な参加を促し、リーダーとしての必要な資質を学ぶ。	A		
		自分の感情をコントロールしながら他者と協働し、目標を達成する力を育成する。	B		
未来構想部	本校のスクールミッション、スクールポリシーの実現のための提言を行う。	定期的にミーティングを行い、本校の課題を洗い出し、職員間で共有する。	A	A	①「総合的な探究の時間」の改善案の実施段階となるため、企画と実施、振り返り、改善のサイクルを適切に行っていく。②上記内容とともに新たな学びのスタイル、進路指導のしかけについてさらに検討し、改訂案を提示していく。
		各分掌の主幹・主任と連携し、スクールミッション、スクールポリシーの実効性を高める。	B		
		本校の新しい学びのスタイルに関する実践を支援し、改善点を議論する。	A		
	教務部広報・中学募集課をバックアップし、効果的な広報戦略を提案する。	私学や他の公立高校の入試状況や広報戦略について研究し、本校の方策について提案する。	C	C	
		本校の進路実績を分析し、その課題と改善点を洗い出し、広報に活かす。	B		
		中学生及び在学生在に創立200周年の意義や記念行事の広報の支援を行う。	C		
本校の抱える諸課題についてテーマを設け、解決への支援を行う。	各学年において学校行事や総合的な探究の時間を有機的に体系づける実践を支援し、改善点を提案する。	A	B		
	学校全体の教育相談機能を高めるための情報提供や研修の機会を促進する。	C			
	未来構想部「よろず相談窓口」を設け、教職員の悩みに対応する。	C			
事務室	電話応対・来客接遇の向上	電話や来客者等に対して、相手の立場に立った「丁寧でさわやかな接遇」に努める。	A	A	①引き続き職員間の連携を図り電話応対等を行う ②予算の執行については引き続き厳しい状況が続くため、継続的な課題としたい。 ③200周年記念事業の成功体験をもとに、職員室との協働体制を一層進めていく。
		限りある予算の中で優先順位を考えて、効果的な執行を心がける。	B		
	効果的な予算執行			B	
	創立200周年記念事業の成功	今年度の200周年記念事業が成功するよう、事務室全体で色々な場面での協力体制を整える。	A	A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	中学校との連携をはかり、スムーズな高校生活への移行とともに、基礎・基本の定着を学習面、生活面でより積極的に取り組んでいただきたい。
B	1年時の振り返りをもとに、中核学年としての自覚と役割及びその責任についてより明確に生徒が考え、行動できるよう取り組みを進めていただきたい。
A	最上級生としての誇りを持たせ、第一希望進路の実現に向けた取り組みを引き続き推進していただきたい。
B	創立200周年を迎え、新たな歴史と伝統づくりに向けた教育活動の創造により積極的に取り組んでいただきたい。
A	職員室との連携をはかり、学校に関わるすべての人々が安心して過ごせる環境づくりを進めていただきたい。

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策（項目を設定して、個条書きで記入すること。）

○ 特色ある教育活動の展開と学校の魅力化…STEAM教育の視点に基づく教科横断的な探究活動の積極的展開及び主体的な学びのスタイルづくり

○ 特色化・魅力化につながる教育課程の編成に向けた組織体制の構築とPDCAサイクルに基づいた取組の充実

○ 授業改善および教育相談機能の強化・連携促進による「だれ一人取り残さない」教育活動の展開

※ この欄は学校関係者評価委員会では記入しないこと。

標記項目以外のものに関する意見